技術
家庭科

よりよい生活・社会を目指して工夫し創造する技術・家庭科学習
― 課題を多面的にとらえ，身に付けた知識や技能を活用する力の育成を通して ―

1　技術・家庭科における子どもに備えさせたい資質・能力

21世紀を生きぬくため，急激な社会の変化に主体的に対応することが求められる今，本学校園技術・家庭科部では，自分たちの暮らしを見つめ，よりよい生活・社会を目指して，工夫し創造することができる子どもたちに育っていって欲しいと願っている。

そこで，本学校園技術・家庭科では，子どもに備えさせたい資質・能力を，次の３点にまとめた。

① よりよい生活や社会を創造するために必要な知識や技能を身に付ける力

よりよい生活や社会を創造するための知識や技能は必要不可欠である。まず，見い出した課題を解決するために，どのような知識や技能が必要なのか，子どもたち自身が知識や技能の習得に向けた必要感や意欲をもてるようにしていきたい。また，このような知識や技能は日々刻々と進化し続けている。学習の中で習得が完結するのではなく，自分の暮らしに応じて，新しい知識を獲得し続けたり，技能を磨き続けたりできるような知識や技能の習得にしていきたい。

② 課題を多面的にとらえ，身に付けた知識や技能を場面に応じて活用する力

私たちの生活や社会は，様々な要素が複合的に絡まり合って成り立っている。その中で，今の自分の暮らしや社会の状況に対して，課題を多面的にとらえた上で，何が最適解であるか考えることのできる力は重要である。子どもたちが暮らしの中から見いだした課題に対して，一面的なとらえによって解決の道を探るのではなく，多面的なとらえによって解決の道を探ることで，よりよい解決方法が見いだされる。あるいは，多面的にとらえることで，一方では解決できても，もう一方では解決できない新たな課題も見いだされることもあるだろう。このように課題を多面的にとらえることを目指し，その解決に向けて，身に付けた知識や技能を柔軟に活用できる力を育んでいきたい。

③ よりよい生活や社会を創造する力

学習を通して暮らしを見つめ直したり，課題を多面的にとらえ解決策を探ったりしていく中で，子どもたちには日々の家庭生活や，社会で利用される技術に関心を深めていってもらいたい。そして，自ら生活や社会に主体的に関わろうとする態度や意欲を育んでいきたい。一人一人が生活や社会を創造する主人公であり，よりより生活や社会を目指して動き出せる力を育みたい。

以上の３点の中から，今年度は②課題を多面的にとらえ，身に付けた知識や技能を場面に応じて活用する力に焦点をあてる。知識や技能の習得や，よりよい生活や社会を創造する力を育むためにも，核となる視点だと考えている。次に挙げる具体的な手立てをもとに，実践を積み重ね，検証していきたい。

2　資質・能力を育むために

○主体的な追求をするための土台作り

～生活を見つめ直し，日常生活の中から「課題」「願い」「問い」を見い出す～

よりよい生活・社会を目指すためには，まず自分たちの実生活の中から「課題」「願い」「問い」

を見い出していくことが必要不可欠である。生活を見つめ直すことによって見いだされた「課題」，よりよい生活・社会を目指したいという「願い」，課題を解決したり，願いを達成するための「問い」を子どもたち一人一人が明確にもつことで，追求への方向性（学習のねらい）をつかんだり，意欲を高めたりすることができると考える。技術・家庭科では，このような主体的な追求をするための土台づくりをまず一番に大切にしていきたい。

この土台を太くつなげるためには，題材の展開の中で，どの場面で，どのような学習の対象との出会いを仕組むかがポイントとなってくる。自分の実生活をじっくりと見つめ直すことで見いだしていくのか，あるいは，知識や技能を習得した上で実生活につなげていくのか，発達段階や学習の内容に応じて工夫していきたい。

○多面的な見方・考え方の視点を明確にする

実生活の中の課題を解決し，実践するためには，多面的な見方・考え方の中から自分の生活や課題に応じた最適解を導き出す必要がある。経済性や効率性，環境性や素材の特徴，あるいは個人や家族の嗜好や価値観など，様々な要素を関連付けながら日々生活している。よって，よりよい生活・社会を目指す上で，課題を多面的にとらえ，解決していく力の育成を重点として取り組んでいきたい。

小学校段階では，課題に対してその解決に向けてどのような要素（内容や条件）が必要となってくるか，多面的な見方や考え方ができるようにしていく。例えば，「生活に役立つ物を作ろう」という課題があった場合，何を作るか，どのような形や大きさにするか，どのように縫っていけばよいかなど，課題解決に向けた要素が挙げられる。その中で「問い」を明らかにし，その問いの中から，課題を解決していくためにはどの「問い」を追求していけばよいか選択する場面を設けて，学習を展開していく。

中学校段階では，課題に対してその解決に向けてどのような要素が必要となってくるか見い出した上で，各要素間の相互依存性や関連性に着目して，多面的な見方や考え方ができるようにしていく。例えば，技術分野の製作で材料を選択する場合，強度や加工の難易度などの特徴を考えた上で，プラス面とマイナス面，時間経過による影響などを踏まえて検討する。課題を解決するための「問い」を選択するだけにとどまらず，相互の依存性や関連性に着目して，批判的視点に立って考えたり，作品全体と各要素の関わりを考えたりして，課題の解決に向けてより質の高い「問い」が導き出せるように学習を展開していく。

○子どもが考えを広げたり深めたりするための教師のはたらきかけ

主体的な追求を目指すために，なぜそのように考えたのか，なぜその方法がよいのかなど「掘り下げる」はたらきかけを行い，子どもたちの「問い」を明確にしていきたい。また，子どもたちが課題の解決に向けて，様々な要素の依存性や関連性に着目するためには，教師から「提案する」はたらきかけが重要となる。子どもたちが導き出した要素を取り上げ，依存性や関連性などの考える視点を提案することで，質の高い「問い」を導き出していきたい。また，学習の成果を振り返ることで「問い」が生まれたり，質が高まったりする。授業ごとの，あるいは，自分の実生活と関連付けたふりかえりを大切にしていきたい。子どもたちが実生活の中で課題を多面的にとらえ，課題に対する問い方を身に付けながら，よりよい生活・社会を目指して工夫し創造できる力を育んでいきたい。

（文責　竹吉　昭人）